

名古屋文化学園保育専門学校 学校関係者評価者及び評価・意見

(令和5年度自己評価に基づく)

I 学校関係者評価 評価者

【業界団体】

公益社団法人 名古屋市私立幼稚園協会 前会長
國府谷 俊盛 先生 (旭キンダーの丘幼稚園園長)

公益社団法人 名古屋民間保育園連盟 常務理事兼事務局長
稲垣 伝三 先生 (オアシスはとおか保育園園長)

【他校、または他の教育機関兼務の本校非常勤講師】

春日井音楽院 前院長 花井 英一 先生

修文大学短期大学部幼児教育学科非常勤講師
牛田 弓子 先生

【卒業生】

平成14年度第2部卒業生
本多 伯舟 先生 (社会福祉法人 清涼会 理事長)

平成27年度第2部卒業生
伊藤 直 先生 (幅下幼稚園 園長)

II 各項目の学校関係者評価・意見

項目1 教育理念・目的・育成人材像

・項目1について、全般的に高い評価ができる。

1. 創立者の教育理念を具現化するために、女性の自立を理念の核とし、貴校の目的である幼稚園教員、保育士の養成のため様々な機会、場面、ツールを利用し学内外に「理念」を周知させている。単なる養成校としての教育課程を踏まえるだけでなく、女性の自立を基軸に職業教育の重要性を明確にしている。また、各方面からの意見を幅広く求め、現代社会が求める人材を把握し、教育目標の適正な方向づけに努力している。
2. 教育理念や特色などを直接伝える機会として保護者懇談会を実施していることについて、今後も保護者にとって必要な機会として取り組みを継続されていくことに期待をしたい。また、保育現場の声を聴きニーズに応えていくため、愛知県実習連絡協議会、愛知県保育系学生就職連絡協議会での懇談の機会を活用し、必要な意見を学校全体で共有することで、学生への指導につなげていくというサイクルによって、より現場から必要とされる学生の育成につながるこ

とに期待したい。

3. 教育理念や特色などを伝えるために、実習反省会や保護者懇談会等の機会を設け、継続的に学内外に理念を周知させていることは高く評価できる。
4. 保育現場が求める保育者像は、求められる保育者の役割の多様化に伴い、多岐にわたるようになってきている。価値観が複雑化し、今まで以上に保育士に求められる技能が多様化していることを踏まえ、社会的ニーズの把握に努めてもらいたい。
5. 新型コロナウイルス感染症の収束にともない、教育・保育実習反省会をすぐに開催していることは、高く評価できる。一方で、コロナ禍を経て社会ニーズや学生の価値観が変化してきているので、十分に対応して頂きたいと思う。
6. 保育者養成校として、「社会人としての自立」「女性の自立」を目標とすることは大変意義深いことと思う。そのため、これまで以上に保育者の専門性を、学生だけでなく養成校や幼児教育・保育施設と連携して、広く社会に向けて発信や活動をして欲しい。

昨今の「不適切保育」が生じる社会的要因を考えると、「社会のニーズ」に重きが置かれ過ぎ、「子どもの豊かな発達や育ち」に悪影響が出ている。そのため、「社会のニーズ」を踏まえるという一方方向だけでなく、養成校や幼児教育・保育施設と連携して、社会に向けても「子どもの豊かな発達や育ち」のため、少なくとも「不適切保育」を生じさせないような政策・施策等を訴えていくなど双方向の活動が必要と考える。

「教育保育現場のニーズ」が新しい要領や指針の方針と大きくズレがある場合がある。そのため、学生が現場に実習に行った際に大きな戸惑いを受けることが多い。「教育保育現場のニーズ」に向けるだけではなく、養成校が連携してこのズレを少なくしていく活動を期待する。

項目2 学校運営

・項目2について、全般的に高い評価ができる。

1. 運営方針を学内関係者に周知徹底しており、各部署がそれをもとに組織整備され円滑に機能していることが確認できる。人事、財務における諸規定の整備もされ、教職員が安心して勤務できる体制がある。昨今とくに厳しく問われるコンプライアンス体制、情報公開体制の整備が学園の内部外部を問わず、なされている。情報のシステム化も時代に則して整備され、各業務の効率化が図られている点も特筆すべき点である。
2. 各委員会の整備と、財務に関しては理事会、評議員会にて決定されているとのこと。今後も継続されていってほしい。コンプライアンス体制については、課題に記載の委員会の設立を早期に検討進めていくことが望ましい。教育活動に関する情報発信については、SNSの活用やオープンキャンパス、見学会の開催などを行っており、実施内容も多岐にわたり、入学対象者が活用しやすいSNSでの発信にも注力されている。今後もより充実した内容での開催や発信を続けてほしい。業務用データサーバーの活用やファイルの共有化することで業務の効率化を図っている点について、課題に記載のその他業務を含めたDX化と情報管理体制を並行して進めていくことで、全ての教職員の負担軽減につなげてほしい。
3. ホームページやSNSを使用した情報発信がとても充実しており、職業選択から就職までの流れがわかりやすく高く評価できる。
4. 授業出欠の管理システムが導入され、教員の作業や業務の効率化がなされた。また、学生が自分で授業ごとの出席状況を確認できるなど自己管理ができるようになったことは両方にとって良いことである。
5. 情報公開について、ホームページや様々なSNSをつかった情報発信が頻繁になされており、教育活動の様子が十分に把握でき、高く評価できる。業務効率に関し、ICTを推進することにより、より一層教職員の業務負担軽減に取り組んで頂きたいと思う。

6. 学校の教育理念の一つである「社会人としての自立」「女性の自立」を目指す上でも「産前産後休暇や育児休業等の就業の多様性に対応できる規定の整備」を進められていることが評価できる。教育活動をHPだけでなく、SNSでも日々発信しているところが評価できる。次の段階として、社会に向けて幼児教育・保育の本質とは何かなどの周知のためにも、発信内容の質を高めることを期待する。

項目3 教育活動

- ・項目3について、全般的に高い評価ができる。
1. 教育理念に沿った教育課程の編成・実施が、適正な学科配置、キャリア教育、関連分野企業との連携などを通して展開されている。活動評価も各方面から頻繁に実施され、その改善が適正に実施されている。教職員の資質向上も充実した研修体制で実施されている。教育、保育施設が多様化するなかで、教育・保育の現場も様々な対応を求められる時代となり、現場視点での教育方法の研究を進める体制に期待できる。様々な社会経験を経て入学してくる学生も多いなか、それぞれの実態に合わせた学業生活ができるよう柔軟に対応しようとする姿勢に共感する。学生の視点からの評価をアンケート方式で実施している点も評価できる。
 2. 就職ガイダンスを授業外で複数回実施しているとのこと。学生にとっては、学校がそのような機会を作ってくれることは心強いだと思える。合わせて「職に就くことの重要性」や「社会のマナー」について伝える取り組みは素晴らしく、今後も継続して行ってほしい。全学生を対象にして年2回の授業アンケートを実施しており、大切なことだと思える。課題に記載の担当者へのフィードバック、速やかな授業への反映へつなげてほしい。課題に記載のとおり研修参加の機会が偏らないような仕組みが必要。教職員全体の資質の底上げにつながることに期待したい。
 3. 教育課程の改善やカリキュラムの充実はもちろんのこと、実習園からのニーズや意見を直接聞く機会として反省会を実施しており、高く評価できる。
 4. 授業評価を実施し、教員にフィードバックすることにより授業の質の向上につながる機会として良いと思う。
 5. 授業に保育現場での実践的内容を多く取り入れていることは、大変高く評価できる。現場における「不適切保育」が社会問題化しているので、このことについても、学生への教育に反映して頂きたいと思う。新型コロナウイルス感染症収束に伴い、教育・保育実習が速やかに実施され、実習反省会も再開されたことは、高く評価できる。今後とも反省会などを通して得た現場のニーズを教育に十分に反映して頂きたいと思う。
 6. 子ども・子育て支援新制度だけでなく、新しい要領や指針を踏まえて、教育保育現場も大きく変遷している。そのため、より新要領や指針を踏まえた学びを深めた学生が教育保育現場に出てくることを期待する。画一的な指導が困難である多様な学生に対して、連携を図りながらチームで個人への支援を図ることは大変意義深いことであるため、その強化に期待している。

項目4 学修成果

- ・項目4について、全般的に高い評価ができる。
1. 専門職への就業率向上を目指し、就職後の卒業生へのフォローも適切に行われている。単位取得が困難な学生への学習支援、生活指導、カウンセリングなども充実させ、退学率の低減をはかり、卒業、就職へ導いている。卒業生の社会的評価を把握しようとする姿勢は、今後の学校、施設からの評価も高まる要因になると確信する。人材活用の点から長期履修コースや夜間部は、幼稚園、保育園にとっても望ましい制度であり是非継続を願うものである。

2. 専門職もしくは専門性を生かした職場への就職率が高いことから、キャリア支援職員による学生への適切な働きかけがなされており、実績につながっていると考える。また早期離職者を出さないための指導も必要な取り組みだと考える。引き続きより必要とされる学生の育成と合わせて取り組みを続けてもらいたい。学習支援及び学校生活支援を強化することで、退学率の低下を図っているとのこと。カウンセラーの配置など資格取得に至らない学生を出さないような配慮は素晴らしいと感じる。学生が担任やカウンセラーを含め、より気軽に学校職員と話ができるような取り組み（学生と学校職員の距離が縮まるような学生向けの発行物の作成など）から、フォローにつなげるなど、幅広く取り組みを検討されることに期待したい。ホームカミングデイの開催は素晴らしい。卒業生同士の情報交換の場としても活用がされる機会でもあり、取り組みを継続され、参加者が増えていくことに期待したい。
3. 専門職・専門性を生かした就労で、高い就職率を維持し続けていることはとても高く評価できる。
4. 幼稚園・保育園などの専門性を有する職場へ高い割合の就職率を維持できていることは、大変高く評価できる。就職先や実習先の園と連携がとれていることも高評価できる。
5. 「ホームカミングデイ」の取り組みは卒業生の動向や現場の状況を把握するのに素晴らしいプログラムだと思う。参加者が増えるよう更なる工夫をお願いしたい。

項目5 学生支援

・項目5について、全般的に高い評価ができる。

1. 就職、進学に関する支援体制、在学中のスクールカウンセラーによる相談体制が充実している。学生の健康管理、生活環境への配慮、保護者、卒業生に至るまでのきめ細やかな対応体制充実にも留意され、それに基づく安定した学生生活の様子がうかがえる。
特に昨今の経済事情から、奨学金を受ける学生も増加していると拝察するが、学園独自の奨学制度があることは心強い。
職業体験という視点から中学生、高校生に対する門戸開放を推進する体制があり、将来、幼稚園教諭、保育士を目指す生徒にとって良き学びの場となろう。
2. 複数回の就職ガイダンスの開催や学内で就職員会を組織している。高い就職率は学校全体での取り組みの成果で学生の安心にもつながると考える。就職委員会の活用も含めてすべての学生が安心して資格取得を目指すことができ就職できるような支援を続けてもらいたい。学生相談室の設置は学生にとってはありがたい場所だと考える。学生にとって身近な場所にする工夫を続けてもらいたい。また気になる学生について、職員同士の共有する仕組みがあることが望ましい。
3. 中学や高校での出張授業や職業体験を行い、積極的に活動している点が、将来にむけて大切であり、高評価できる。
4. 学生の健康管理を、教職員すべてが共通理解をもって取り決めて実践していることは評価できる。高校との関連によるキャリア教育について、保育所での虐待や通園バス内での熱中症による事故などが頻繁に起こり、保育の仕事や保育者の資質自体への信頼性が失われつつある。中学や高校での出張授業にて、保育の楽しさや大切さを伝える努力を続けていることは素晴らしい、引き続きお願いしたい。
5. 昨今の社会事情を踏まえると、学校独自の奨学金制度があることは大変重要なことであると考える。その点で高く評価できる。
6. メンタルヘルス不調となる人が増えるなか、カウンセラーによる相談体制が整っていることは高く評価できる。

項目6 教育環境

・項目6について、全般的に高い評価ができる。

1. 附属幼稚園での実習はもとより、学内外、海外での実習プログラムが用意されている点は特筆すべきことである。教育機器備品の充実、多様な学習環境の整備、防災体制など環境整備に配慮がある。特に、自然災害が国内において頻繁に報道される昨今、学生の安全はもとより教職員の心構えが適切な対応へつながることを十分に認識されている様子が見える。
2. 施設・施設・設備については十分に整えられているところは素晴らしい。使用したいときに十分に活用できるよう引き続き維持管理、更新を続けてもらいたい。海外研修の機会の提供ができることは、学生にとって幅広い視野を持つことにもつながるため、素晴らしい取り組みの一つだと考える。
3. 実習園での教育実習、保育実習だけではなく、附属幼稚園での基礎実習や協力園でのあかちゃんふれあい実習等の独自のプログラムで子どもと触れ合う機会を多く設け、良い先生を育む教育環境は高く評価できる。
4. 防災に対する体制の整備について、いつどこで大きな災害が起こるか分からない昨今である。年1回の避難訓練だけではなく、状況の違うパターンを想定した訓練も必要ではないかと思う。
5. 保育現場でのICTの導入が急速に進んでいる。様々なデバイスが保育現場に取り入れられてきているので、経年劣化した機器の更新とともに、これらへの対応も進めて頂ければと思う。大規模災害が頻発している。また公共交通機関の運休による帰宅困難等も予想されるので、十分な非常食の備蓄に引き続き努めて頂きたいと思う。

項目7 学生の受入れ・募集

・項目7について、全般的に高い評価ができる。

1. 高等学校、ハローワークなどへの情報提供や、各種メディアを使った情報発信を充実させている。入学選考は適正公平であり、納付金も妥当で奨学金制度のさらなる充実を目指している点も学生は心強い。
2. 高校訪問や出張純病を主業務とする広報担当職員を配置したとのこと。国の政策や、少子化と大きく情勢が変化していく中で、安定的で永続的な学校経営を行うための取り組みを強化していることは重要。今後も中高生世代に保育士職の魅力や仕事のやりがいについても積極的に発信されることを期待したい。
3. 活発な広報活動が行われ、企画広報室を中心にホームページやSNSで発信されている。実績が出ていることは大変評価できる。
4. 広報担当職員による高等学校への情報配信は、保育職に関する正確な情報提供に寄与していると思われ、素晴らしいと思う。また、地域的にも幅広く学生募集ができていることは、大変評価できる。

項目8 財務

・項目8について、全般的に高い評価ができる。

1. 財務状況は安定的で盤石なものと拝察する。
2. 予算については、理事会、評議員会にて諮られており、会計年度毎に公認会計士による監査を実施しているとのことで、問題ないと評価する。
3. 評議員会・理事会の承認、公認会計士の監査そして情報公開までしっかりと行われていて高く評価できる。
4. 情報公開を行い、公認会計士の監査を実施しており、全体として高く評価できる。

項目9 法令等の遵守

- ・項目9について、全般的に高い評価ができる。
- 1. 各法令、専門学校設置基準等に沿って適正に運営されている。
- 2. 個人情報保護の遵守は、学生が就職した後も重要な事なので、SNSの取扱とともに、引き続き指導をお願いしたい。

項目10 社会貢献

- ・項目10について、全般的に高い評価ができる。
- 1. 附属幼稚園、児童養護施設、障害者施設などでのボランティア活動が多く実践され、地域に対する貢献活動も積極的に実施されている。新型コロナウイルス感染症による各制限も緩和され、より一層の充実が期待される。
- 2. 近隣の障害者施設のイベントの手伝いやボランティア活動を行っていること、学内施設を教育・文化活動の団体に貸与していること、子ども図書館を地域に開放する等、社会貢献について評価できる。

全般的なこと、その他

- ・全体的に高く評価できる。
- ・学校の自己評価に賛同できる点があり、評価については問題ないと評価する。
- ・毎年、学校自己評価を継続して行うことにより様々な改善が図られ、特に教育内容の充実、広報の周知、学納金の減額及び修学支援による減免などが学生数の増加につながり、成果を感じる。
- ・自己評価により改善が続けられれば、学校活動の充実や先を見通した教育の在り方、業務の削減などに繋がっていくと考えられる。